



こども宅食利用家庭1,000世帯における
新型コロナウイルスの影響に関する
アンケート調査報告書

2020年5月28日



こども宅食応援団

目次

1. 調査概要

本調査の目的

実施地域と対象世帯

アンケート調査の実施内容

アンケート調査の設問一覧

2. 分析結果サマリー

こども宅食の利用世帯とは？

調査仮説の検証結果

3. 集計結果の詳細

4. こども宅食とは

調查概要



本調査の目的

新型コロナウイルス(COVID-19)やその感染予防策が全国のこども宅食の利用家庭にどのような影響を与えているか、を明らかにし、必要な支援策を明らかにするため、以下の3つの視点でのアンケート調査を実施した。

1

コロナ禍において、生活はより苦しくなっているのでは？
また、具体的にどのような変化、影響がでているのか？

2

保育園の休園や小中学校の休校、職場環境の変化によって、
親、子へのストレスが高まり、家庭内の不和が強くなっているのでは？

3

緊急事態宣言下で外出の制限がある中で、
友人や支援先とのつながりが弱まり、孤立が深まっているのでは？

実施地域と対象世帯

全国でこども宅食を実施している4つの団体に協力していただき、合計で**1,015世帯**からアンケートの回答を得ることができた。

実施団体	ひとり親家庭福祉会ながさき
対象世帯	つなぐBANKに登録している226世帯
回答数	149 (回答率66%)

長崎

京都

実施団体	社会福祉法人 あだち福祉会
対象世帯	2020年2月と3月に配送を実施した京都こども宅食の対象世帯134世帯
回答数	70(回答率52%)

実施団体	熊本県ひとり親家庭福祉協議会 てとて
対象世帯	熊本県内のひとり親世帯のうち協議会のLINEに登録している1,350世帯
回答数	726 (回答率54%)

熊本

宮崎

実施団体	一般社団法人らしくサポート
対象世帯	都城市周辺地域を含むひとり親世帯会員の75世帯
回答数	70 (回答率93%)

アンケート調査の実施内容

実施日時	2020年5月13日～5月25日
実施方法	Questant(マクロミル)を利用したWebアンケート
実施者	こども宅食応援団、認定NPO法人フローレンス
対象世帯	京都、宮崎、長崎、熊本でこども宅食を利用している子育て世帯
世帯数	1,015世帯 （長崎:149世帯、京都:70世帯、熊本:726世帯、宮崎:70世帯）
回収率	56.9% （長崎:66%、京都:52%、熊本:54%、宮崎:93%）

アンケートの設問一覧

Q1	生活への影響詳細	コロナウイルスやその感染予防策(一斉休校など)が現在の生活に与えた影響について、あてはまるものをお選びください。
Q2	収入の増減	「収入が減った(減る見込みになった)」に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答して頂いたみなさまにお伺いします。どの程度減ったか、大体の割合を教えてください。
Q3	支出の増減	「支出が増えた(増える見込みになった)」と「あてはまる」「ややあてはまる」と回答して頂いたみなさまにお伺いします。どの程度増えたか、大体の割合を教えてください。
Q4	生活満足度の変化	総じて、コロナ禍以前の生活と比較して、生活満足度はどのように変化しましたか。
Q5	健康への影響	現在のご自身やご家族の健康状態について、あてはまるものをお選びください。
Q6	こどもとの関わり	ご自身とお子さんとの関わりについて、あてはまるものをお選びください。
Q7	相談できる人の有無	現在、生活や子育てに困ったときに相談できる人、何か会ったときに手助けしてもらえる人はいますか？
Q8	相談できる人との関係の変化	「いる」と答えたみなさんにお伺いします。そういった方々との関係は、コロナの影響で変化しましたか。
Q9	物品ニーズ	食品や日用品として、いまどのようなものがあるといいと思いますか？あてはまるものをお選びください。
Q10	支援の利用状況	以下のサービスや窓口の利用状況について、教えてください。
Q11	コロナに対する不安	自分や家族へのコロナウイルスの感染について、どのように感じていますか？
Q12	情報入手経路	現在、コロナ禍での生活支援に関する情報はどこから入手していますか？
Q13	自由回答	今、困っていること、不安に思っていることがありましたら、教えてください(自由記述)。
Q14	家族形態	家族の形態として最もあてはまるものをお選びください。
Q15	こどもの人数	家計を共にするお子さんは何人いますか。
Q16	こどもの年齢	お子さんの学年を教えてください。
Q17	世帯年収	ご家庭の世帯年収について、あてはまるものをお選びください。

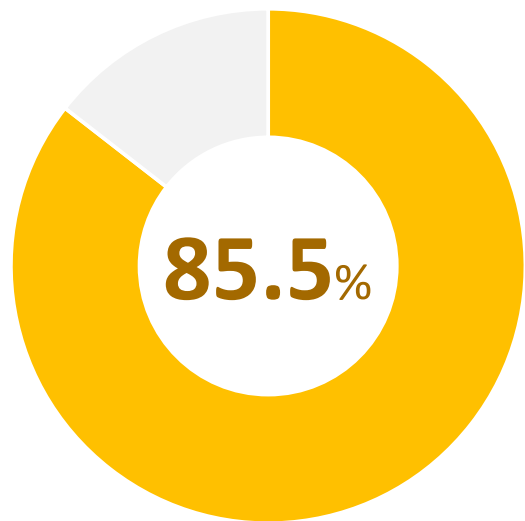
属性情報

分析結果サマリー

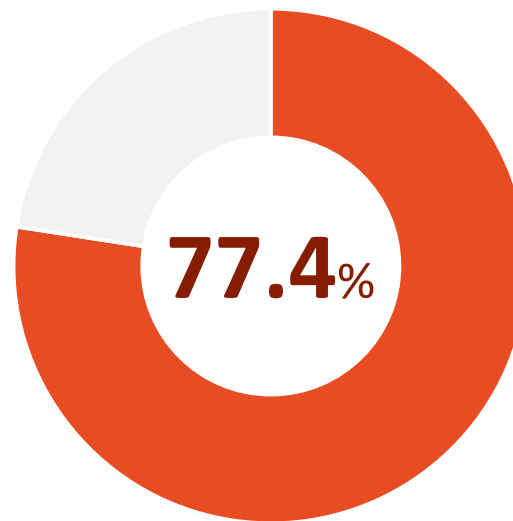
今回の調査対象の「こども宅食の利用世帯」とは？

年収300万円未満のひとり親世帯が大半を占めています。

年収300万円未満の世帯



ひとり親世帯



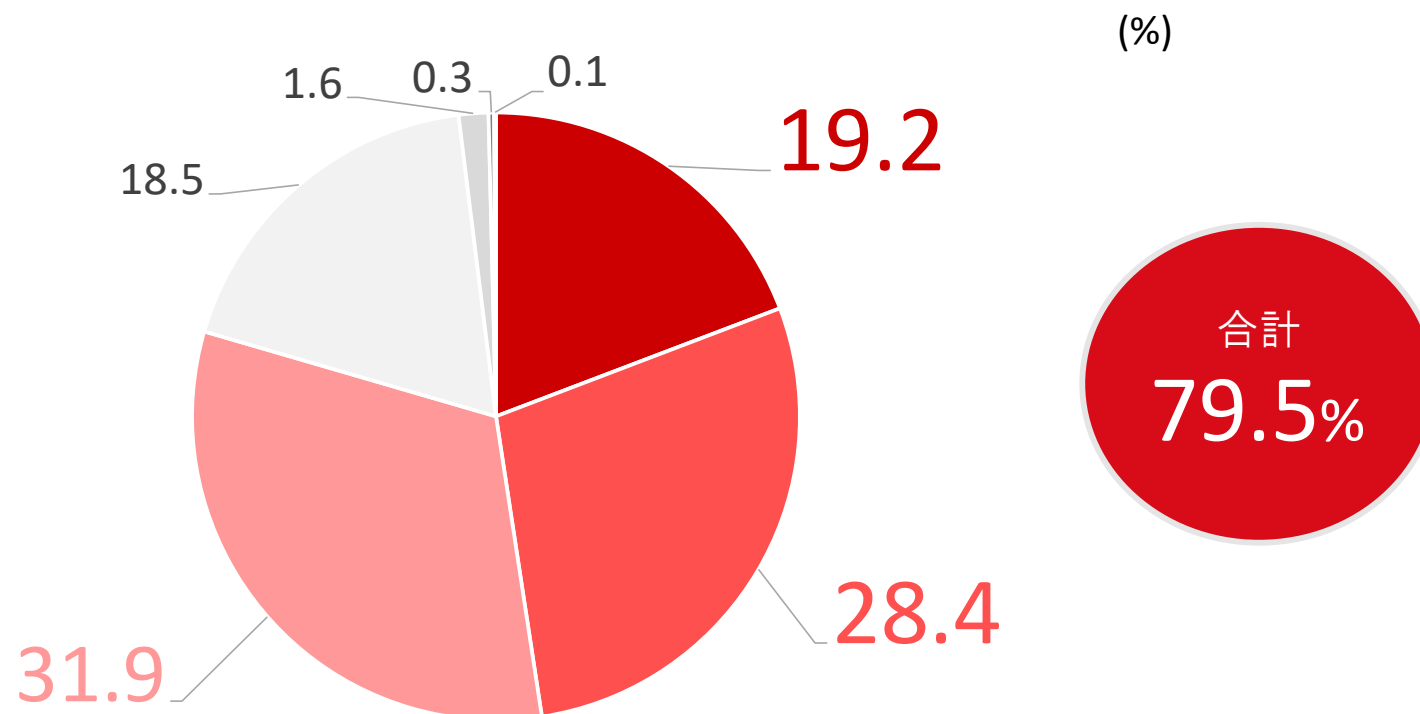
1

コロナ禍において、生活はより苦しくなっているのでは？
また、具体的にどのような変化、影響がでているのか？

- コロナ禍以前に比べて、
約8割の家庭で生活はより苦しいものになっている。
- コロナ禍で最も影響が大きかったのは**支出が増えたこと。**
収入の減少よりも、支出の増加の影響の方が大きい。
疲労や精神的な不安、家事、育児のストレスの影響も大きくなっている。
- 支出の増加については、**20-40%程度増えている人が最も多く、**
ついで40-60%程度となっている。これら2つで全体の半数以上を占めている。

コロナ禍以前に比べて、約8割の家庭で生活はより苦しいものになっている。

総じて、コロナ禍以前の生活と比較して、生活満足度はどのように変化しましたか。

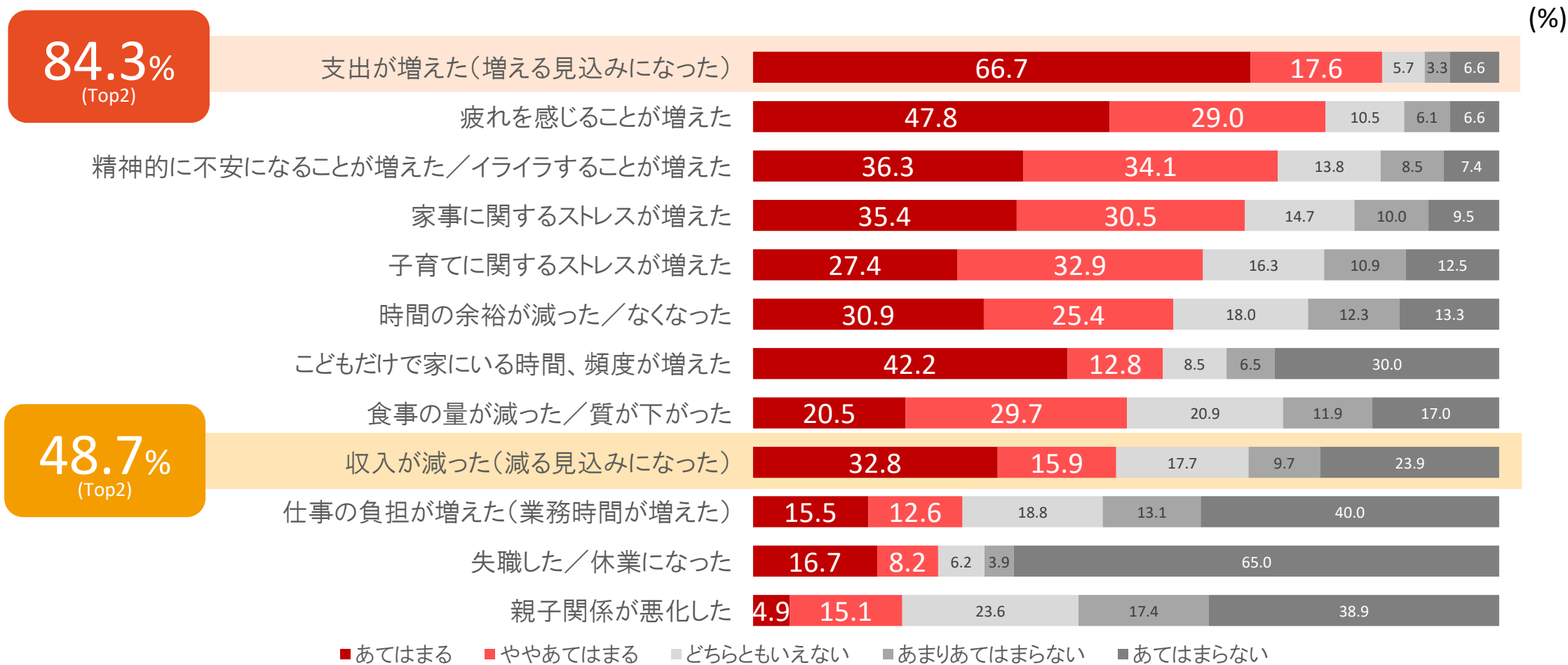


■とても苦しくなった ■苦しくなった ■やや苦しくなった ■どちらとも言えない ■ややゆとりができた ■ゆとりができた ■非常にゆとりができた

生活への影響詳細

コロナ禍で最も影響が大きかったのは**支出が増えたこと**。収入の減少よりも、支出の増加の影響の方が大きい。ついで、疲労や精神的な不安、家事、育児のストレスの影響が大きくなっている。

コロナウイルスやその感染予防策（一斉休校など）が現在の生活に与えた影響について、あてはまるものをお選びください。

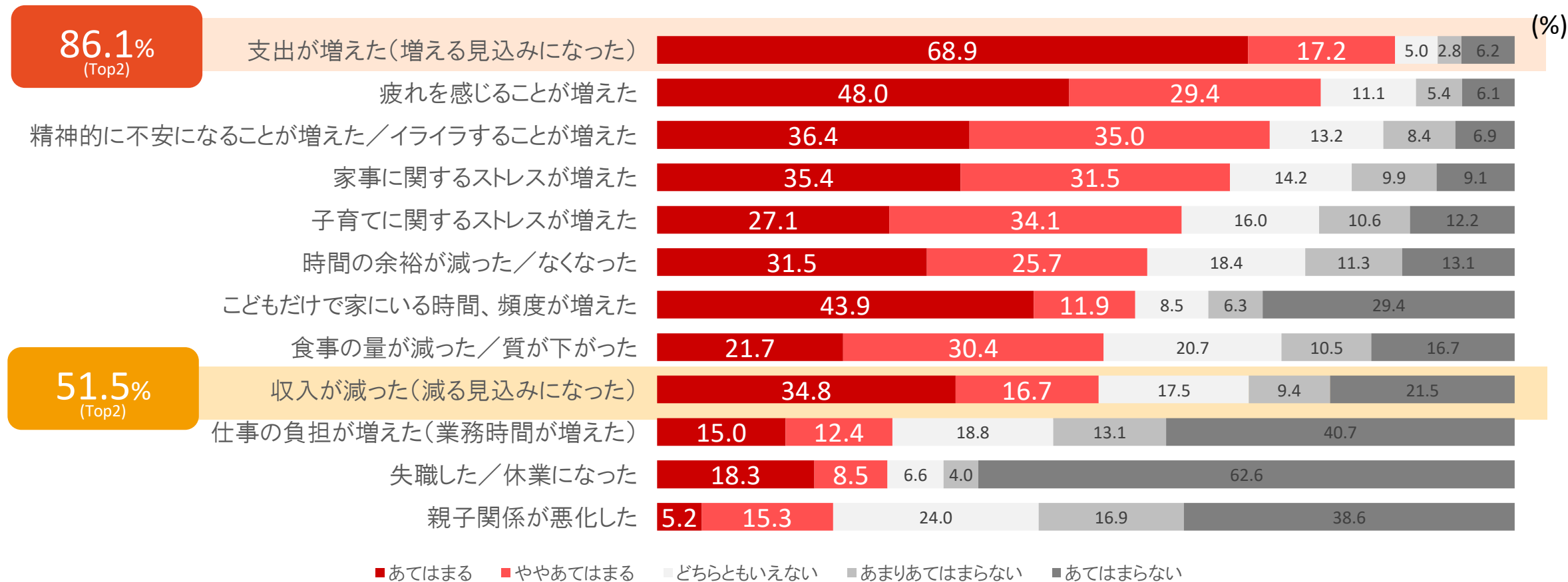


生活への影響詳細 (年収300万円未満世帯)

年収300万円未満の世帯についても同様の傾向が見られた。

コロナウイルスやその感染予防策(一斉休校など)が現在の生活に与えた影響について、あてはまるものをお選びください。

こども宅食利用世帯のうち、年収300万円未満の世帯(n=868)

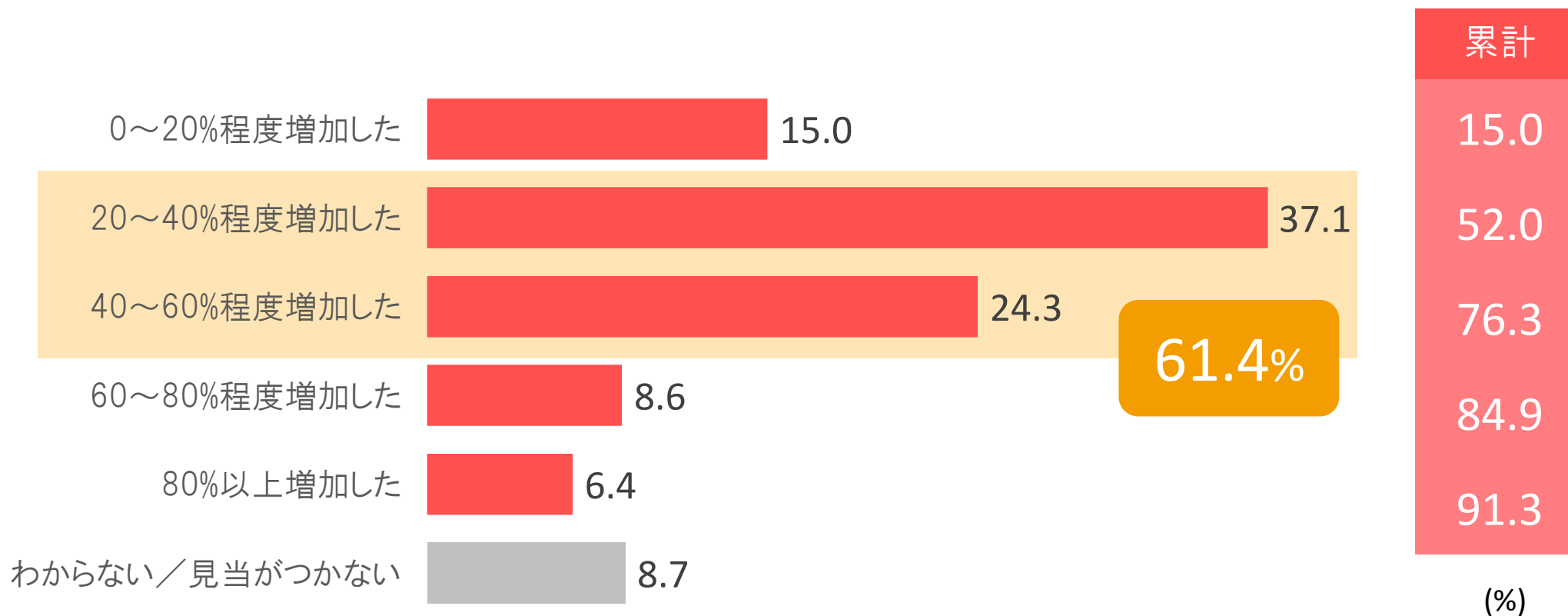


コロナウイルスに関する影響アンケート回答世帯(n=1,015)

支出の増減

支出の増加については、20-40%程度増えている人が最も多く、ついで40-60%程度となっている。これら2つで全体の半数以上を占めている。

「支出が増えた(増える見込みになった)」に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答して頂いたみなさまにお伺いします。どの程度支出が増えたか、大体の割合を教えてください。(回答数: 734)



金銭的な影響について、利用家庭から寄せられた声

息子は知的障害、娘は精神障害があり、身内以外に預ける事は難しいのが現状です。
仕事も3月から休みで収入はゼロになりました。
今は養育費や扶養手当などでギリギリ生活していますが、ちゃんと生活できてはいません。
家賃、光熱費も滞納しており不安は大きくなるばかりです。

仕事がなく、生活するにもお金はもう限界がある。
支払いもできなくなり、学校にも定期代もどうしたらいいかわからなくなってます。
これ以上続けば、家もなくなり、家族で路頭に迷います。

家に子どもだけがいる時間が増え、ご飯等を用意して仕事にでかけるが、食費がかかりすぎて、どんどん食卓が貧相になってしまう。早く、仕事も学校も普通に戻ってほしいし、国の支援策も予想以上に遅いので困ります。

生活費がそこをついて、今、給料日まで我慢の日々を送ってます。

収入が減ったのに、毎日の食費は驚くほど増えて、現金がないのでクレジットで払い、手当てなどで払うという生活でしたが、来月は家賃も払えないと思います。情けないです。子供を満足に食べさせられないし、光熱費も払えるかわかりません。

マスクが手に入らない。
あっても高いから買えない。

小学生の給食が無く、高校生に弁当を作らない分の昼食代がかなり負担になっています。コロナ前の、当たり前の日々に、早く戻ってほしいです。

設問項目以外に、お子さんの学力や進路を心配する声も多く上がっている。

高校3年で、田舎の高校なので、受験対策以前に、高校2年の教科書も終わってないまま、子どもは大学進学を希望しており、受験への心配があります。

中学三年生で、受験だが勉強の遅れ日々の生活で金銭的余裕がなく塾に行かせてあげられない

学校から課題が出ていたが、自分で新しい単元を学習しなければならず、学校からもザツとしか授業をしない(時間の関係で?)からと言われたようです。

子供が受験生なので勉強の遅れが不安です。遅れているので塾に行かせたいですが、生活が苦しい為無理なので早く学校が始まって欲しいです

学習塾に行かなければならない状況になり、支出もさらに増加。

中3受験生をかかえています。ほぼ3ヶ月学校に行っておらず、オンライン授業も健康観察や課題の提出位にで、きちんとした授業はありません。受験生抱える親御さんは、この先行きが見えない中で、とても不安な気持ちだと思います。

息子が来年高校卒業ですが就職するつもりでしたが、コロナの影響で就職難になると聞き専門学校に行くことにしました。専門学校に受かるか不安です

2

保育園の休園や小中学校の休校、職場環境の変化によって、親、子へのストレスが高まり、家庭内の不和が強くなっているのでは？

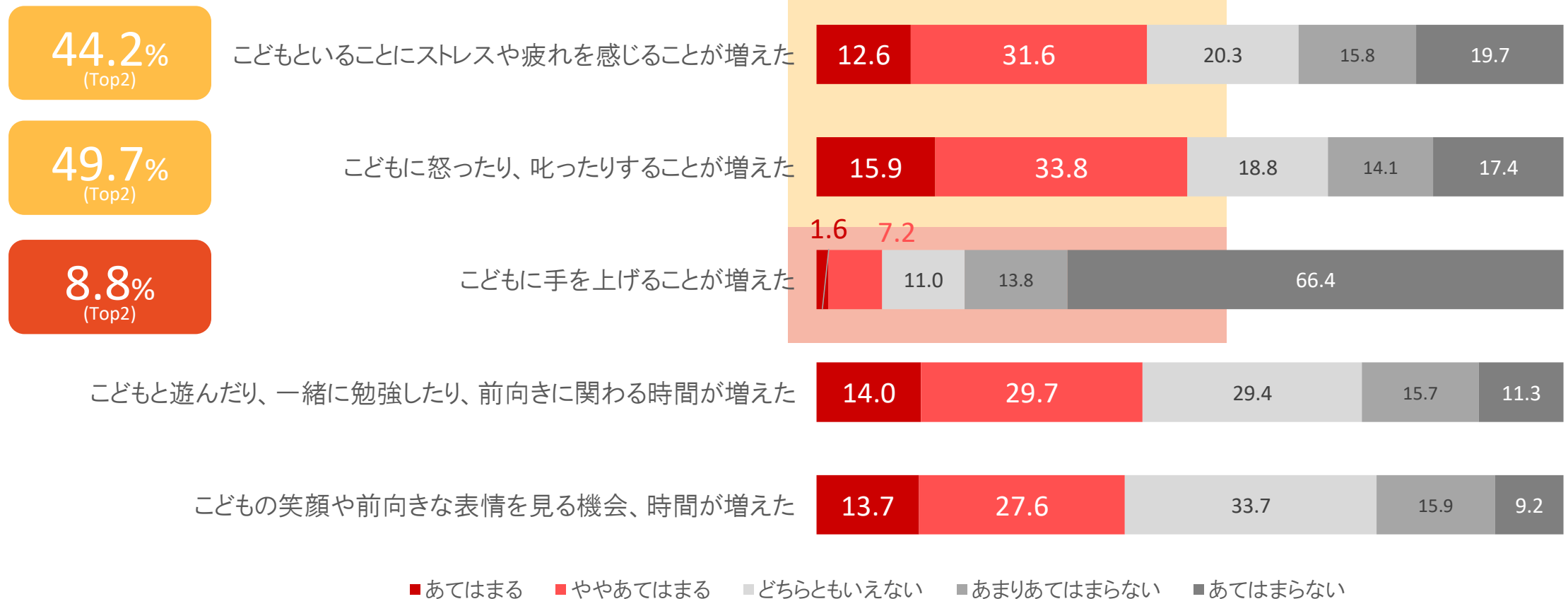
- こどもといることに**ストレスや疲労を感じる**人が増えており、**怒ったり、叱ったりする行動**も増えている。
- 特に、一部の家庭では、こどもに手を上げることも増えていて、**家庭内のストレスが高まっている**現状が伺える。

子どもとの関わり

子どもに対して怒ったり、叱ったりする行動が増えている。特に、一部の家庭では、**子どもに手を上げることも増えています、家庭内のストレスが高まっている**現状が伺える。

ご自身とお子さんとの関わりについて、あてはまるものをお選びください。

(%)



家庭内の環境について、利用家庭から寄せられた声

自分の親の(実家の)片付けの不安も大きく、
子供が宿題をしていると言い全然していな
かった時、一瞬ですが殺すんじゃないかと思う
瞬間がありました。疲れているんだと思います

子どもとの時間を作りたくてもなかな
なか、時間が作れなかったり、仕
事の疲れからか、つい、子供に八
つ当たりすることもあります

子供達が一日中家にいて、
家中散らかしたり汚したりするので
家事の負担と苛々が増えて困っている。

子供との関係がうまく行かず
毎日が辛い

生活のリズムがぐちゃぐちゃ、
早く学校が再開して、仕事をしたい。
落ち着いた生活がしたい

子供たちに対して、怒る回数が増え
て、笑顔で接することが少なくなって
きた。仕事も休みになり収入も減って
何をするにも我慢の生活。

どこにもストレスを発散させることもできず、
いつ爆発するかもわかりません。

子供同士の喧嘩が増え
子供達も自分自身もストレスが増えた。
毎日頭痛でするようになった

娘も心身共に疲労して居るようで
急に泣き出したり感情的になったり…
不安定になってます…(T_T)

3

緊急事態宣言下で外出の制限がある中で、
友人や支援先とのつながりが弱まり、孤立が深まっているのでは？

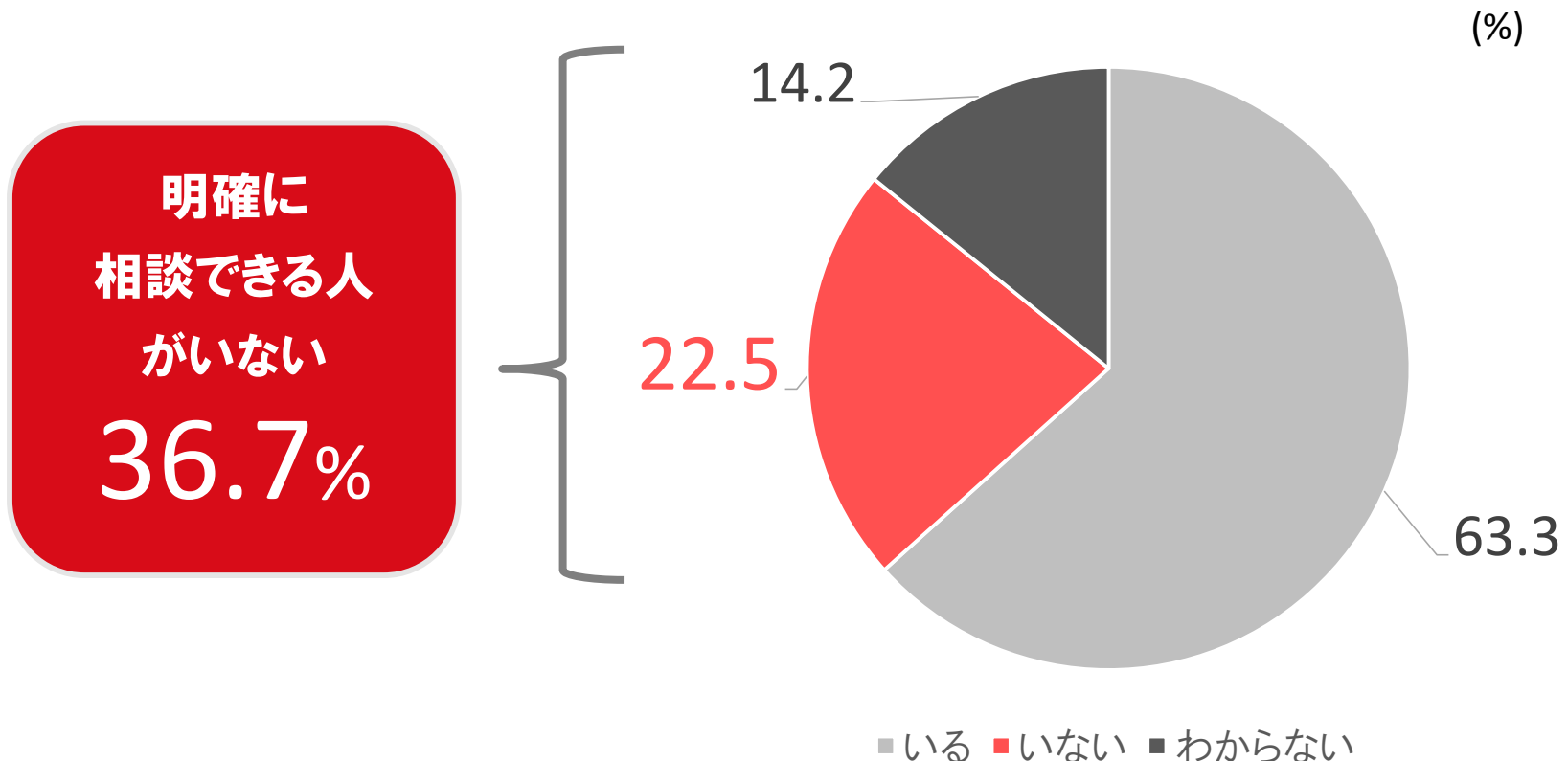
- コロナ禍において、こども宅食利用家庭については
3割強の人が相談できる人が明確にいない状態になっている。
- 現在、相談できる人がいる家庭においても、
2割弱の家庭で以前より頼ったり、お願いすることが難しくなっている。
- コロナ禍において支援サービスの利用状況に影響が出ている可能性が示唆された。
一方で、そもそも、こうした支援サービスの利用率は低く、
8割以上の人が利用していない実態が明らかとなった。

相談できる人の有無

コロナ禍において、相談できる人、手助けしてもらえる人がいない人は22.5%となっている。

わからないと回答した人を含めると、**3割強の人が相談できる人が明確にいない**状態になっている。

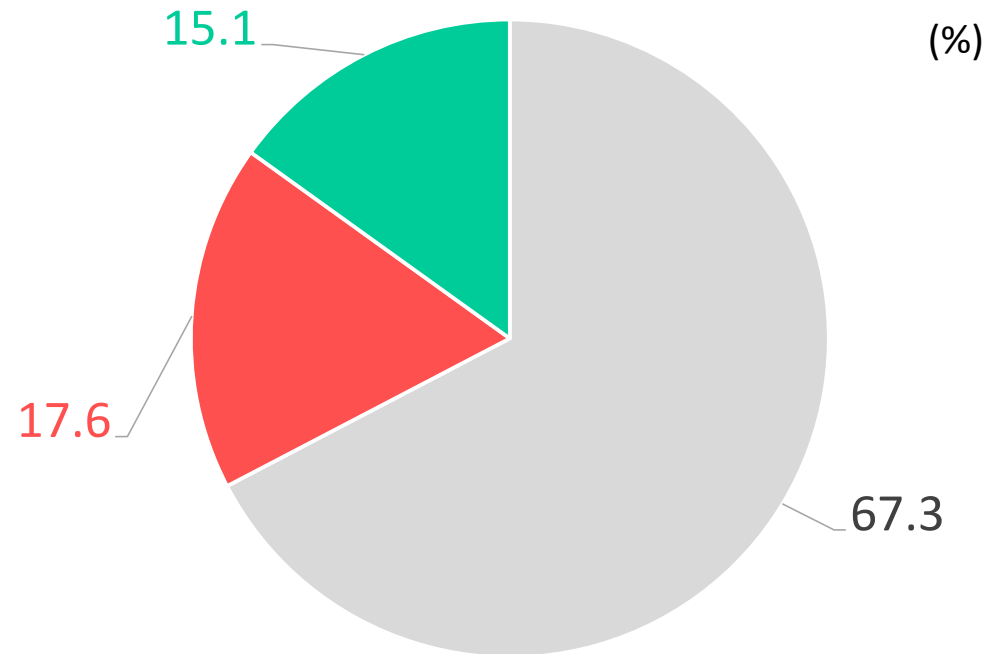
現在、生活や子育てに困ったときに相談できる人、何か会ったときに手助けしてもらえる人はいますか？



相談できる人との関係の変化

**8割以上は相談できる人との関係を維持できている一方で、
2割弱の人にとっては、以前よりも頼ったり、お願いすることが難しくなっている。**

「いる」と答えたみなさんにお伺いします。そういった方々との関係は、コロナの影響で変化しましたか。(回答数643)



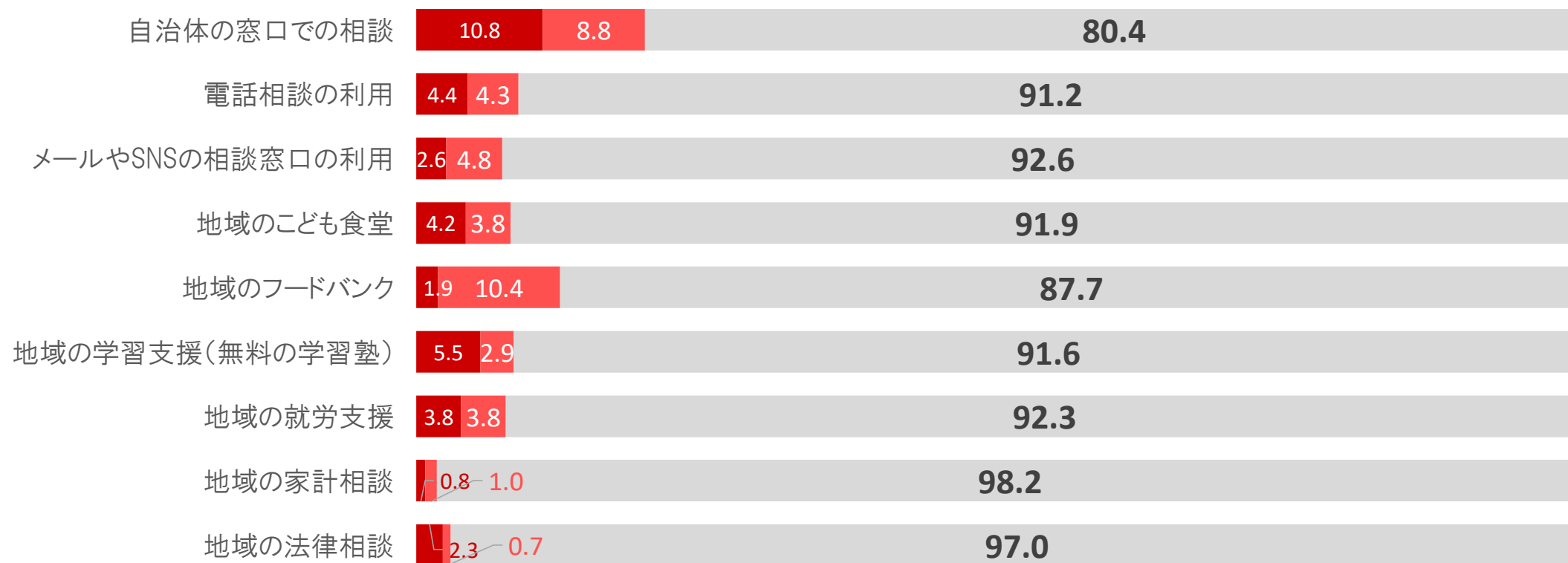
- 以前と同じように相談などすることができる(変化なし)
- 以前よりも頼ったり、お願いすることが難しくなった
- 以前よりも頼ったり、お願いすることが増えた

支援の利用状況

コロナ禍において、支援サービスの利用状況に影響が出ている可能性が示唆された。一方で、そもそも、こうした支援サービスの利用率は低く、8割以上の人が利用していない現状が明らかとなった。

以下のサービスや窓口の利用状況について、教えてください。

(%)



■ コロナ禍以前は利用していたが、今は利用していない

■ 現在も利用している

■ もともと利用していなかった

家庭内の環境について、利用家庭から寄せられた声

毎日の生活費が24時間必要になりかなり家計は苦しく、精神的にも苦しいです。もっと支援があると精神的にも少しは軽減すると思います。助け船を出すにもそれぞれが精一杯なので、難しい現状です。

母子家庭の場合の自分がコロナに感染したときの子供の行き場所がどこになるのか？預ける場所が分からない。

コロナのせいでちょっと体調悪くてもしばらく出勤停止になり、まだ有給もついてないため収入が安定しない。自治体の支援は子育て世帯となってるけど、児童手当の対象家庭だけで高校生のうちは定期代や食費の増加など負担も大きいのに自治体の支援は何もない。

収入が減り、生活必需品、食費も切り詰めています。どこの誰に、どうやって頼ればいいのかわかりません。ネットなどで身近なフードバンクや子ども食堂を探しますが、人数が多すぎて入れなかったり、情報をとって逃して、配布を受けられなかったり、どうやって支援団体に助けを求めたらいいかも、わかりません。相談できる場所が欲しいです。

とにかく自治体の支援の情報もこちらから調べないと届かないし、支援自体が少なすぎる。

先が見えない不安。
もしもの時の子供達の事の心配。
信用でき頼れる人間がいないです

自治体によって、ひとり親の給付や支援に差がありすぎる

今回の調査で、様々な生活課題を抱えるご家庭が一刻の猶予もない深刻な状況に陥っていること、食費などの支出負担が重くなり、家計を圧迫していること、そしてご家庭の多くが生活上の課題を抱えながらも既存の支援先とのつながりが無い状況にあることが浮き彫りになりました。

「こども宅食」は、こうした困難を抱えるご家庭へ食料品などを定期的に配送することにより、各ご家庭と積極的な関わりを持ち、困りごとをヒアリングし、リスクが高まる前に適切な支援に繋ぐよう働きかける「アウトリーチ型」の支援です。

新型コロナウイルスの影響で経済状況の悪化が続く中、こうしたアウトリーチ型の支援は、今後さらに重要度が高まっていくと考えられます。

こども宅食応援団では、今後もこども宅食の立ち上げを希望する団体に資金の助成やノウハウの提供などの立ち上げ支援をすることで、「こども宅食」の支援の輪を全国に広げていきます。

また、今回の調査のように定量的な調査を行っていくことで、困難を抱えるご家庭が本当に必要としている支援を把握し、届けていきます。



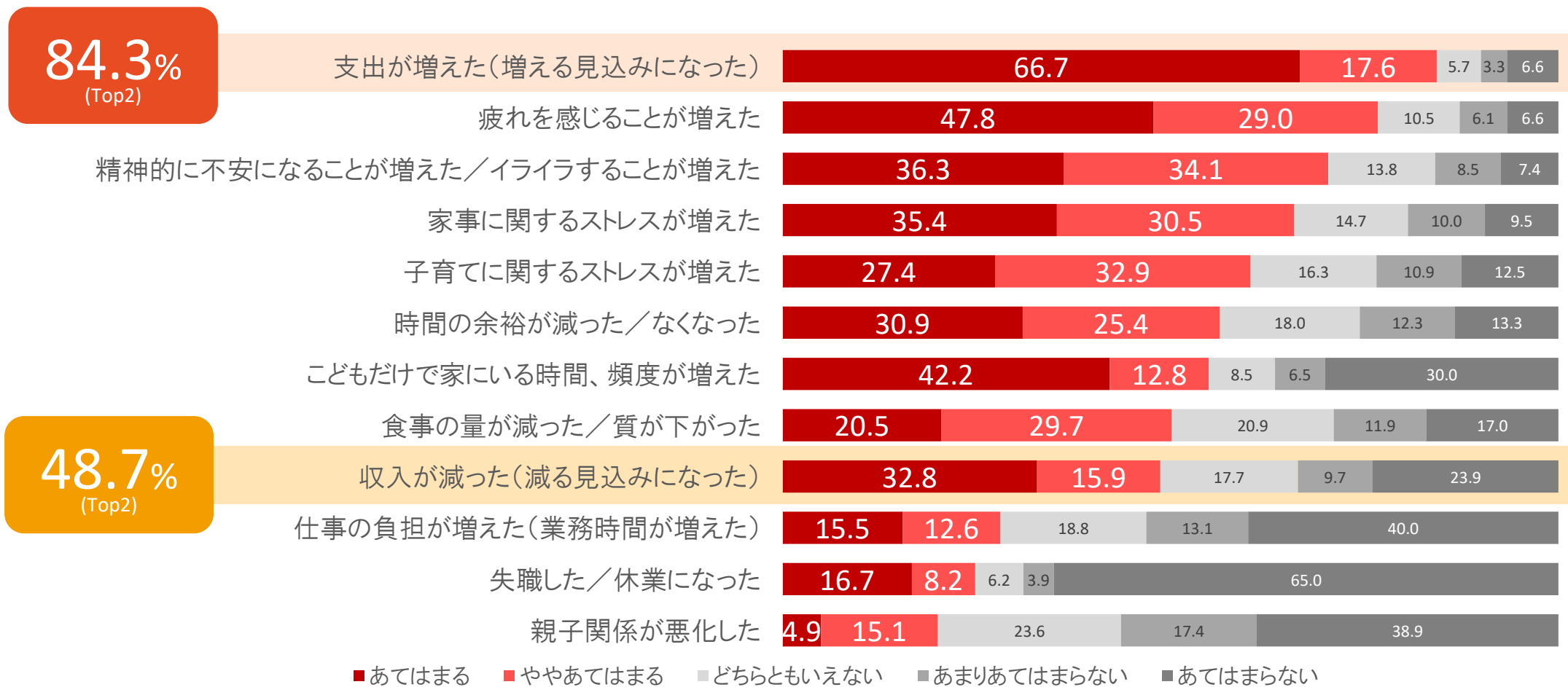
集計結果の詳細

(単純集計)

Q1 生活への影響詳細

最も影響が大きかったのは「支出が増えた」こと。ついで、疲労や精神的な不安、家事、育児のストレスとなっている。収入の減少よりも、支出の増加の影響の方が大きい。

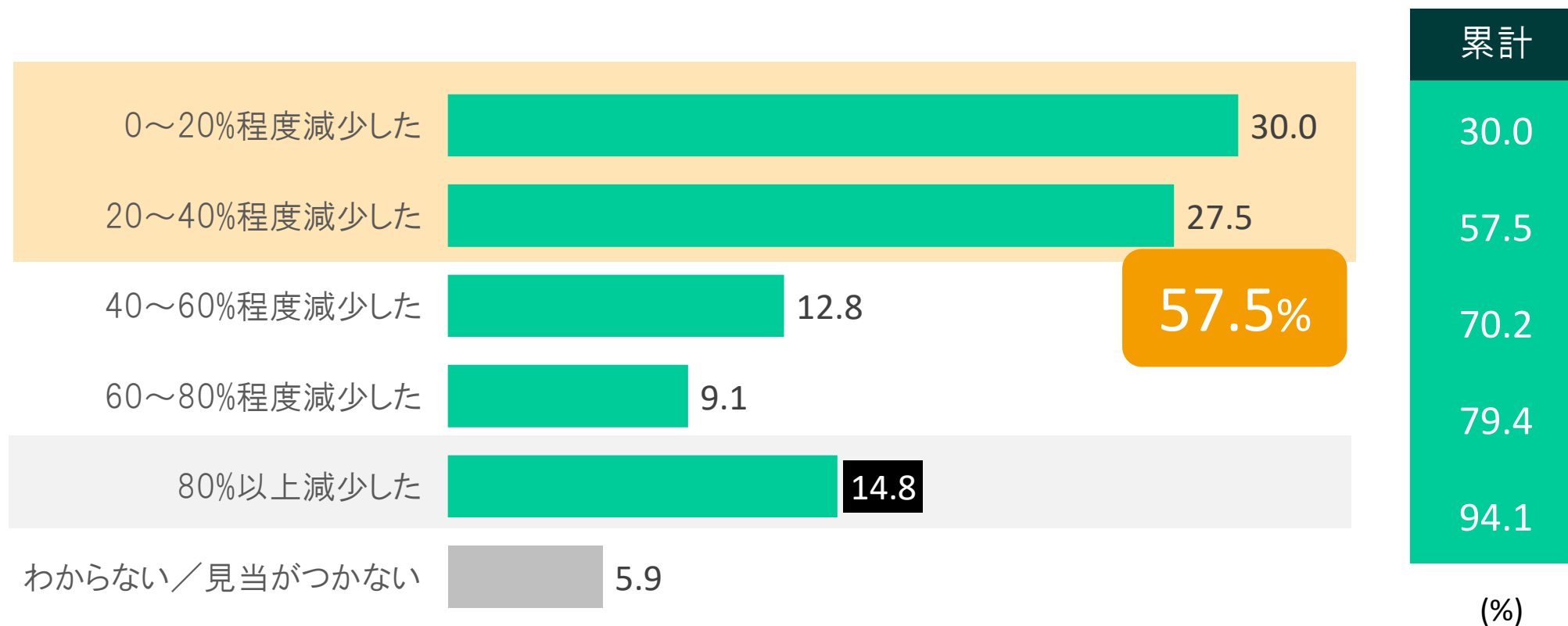
コロナウイルスやその感染予防策(一斉休校など)が現在の生活に与えた影響について、あてはまるものをお選びください。



Q2 収入の増減

0-20%程度増えている人が最も多く、ついで20-40%程度となっており、これら2つで全体の半数以上を占めている。1割強の世帯では、収入が80%以上減っている。

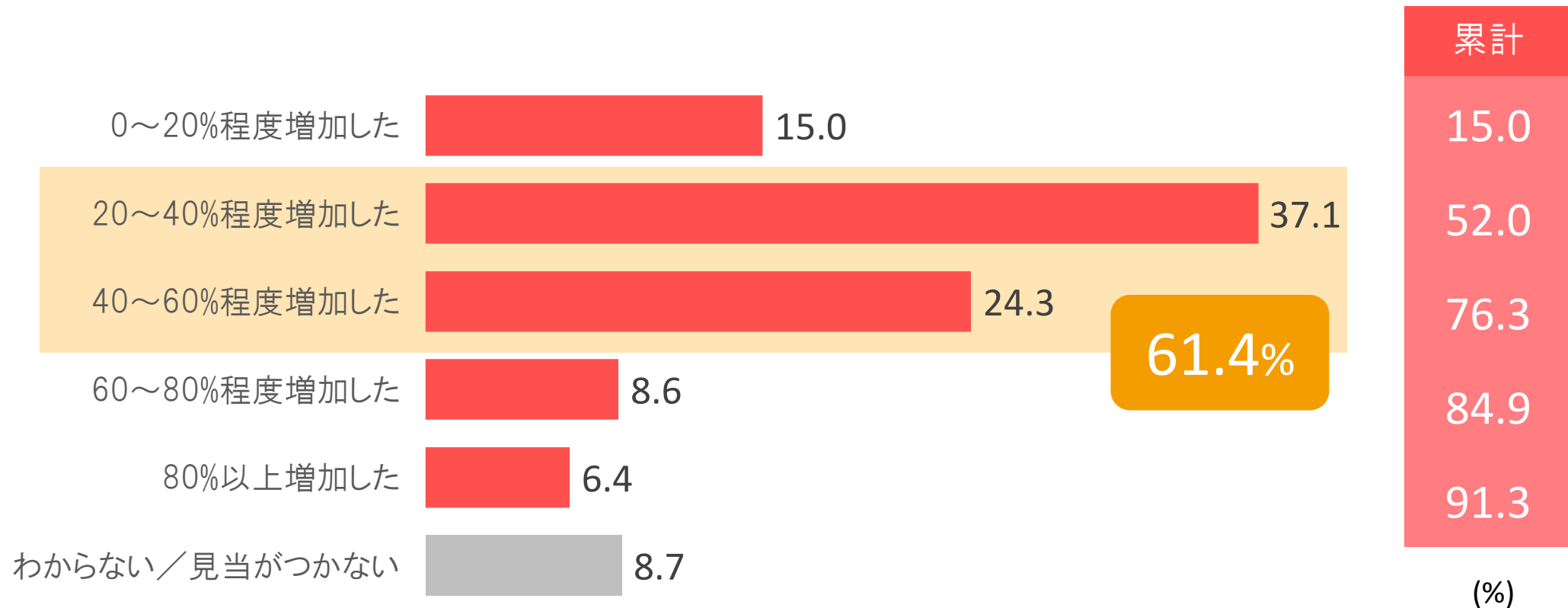
「収入が減った(減る見込みになった)」に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答して頂いたみなさまにお伺いします。
どの程度収入が減ったか、大体の割合を教えてください。(回答数: 494)



Q3 支出の増減

20-40%程度増えている人が最も多く、ついで40-60%程度となっており、これら2つで全体の半数以上を占めている。

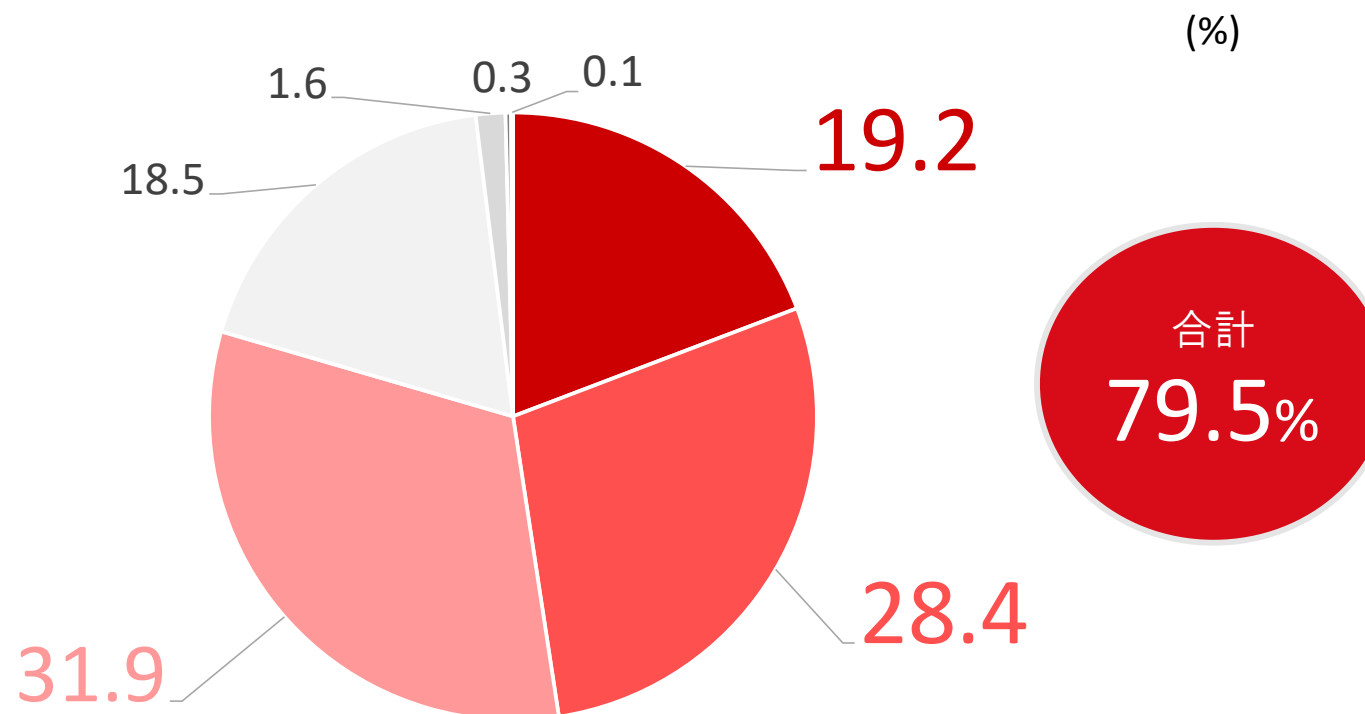
「支出が増えた(増える見込みになった)」に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答して頂いたみなさまにお伺いします。
どの程度支出が増えたか、大体の割合を教えてください。(回答数: 734)



Q4 生活満足度の変化

コロナ禍以前に比べて、約8割の家庭で生活は苦しいものになっている。

総じて、コロナ禍以前の生活と比較して、生活満足度はどのように変化しましたか。



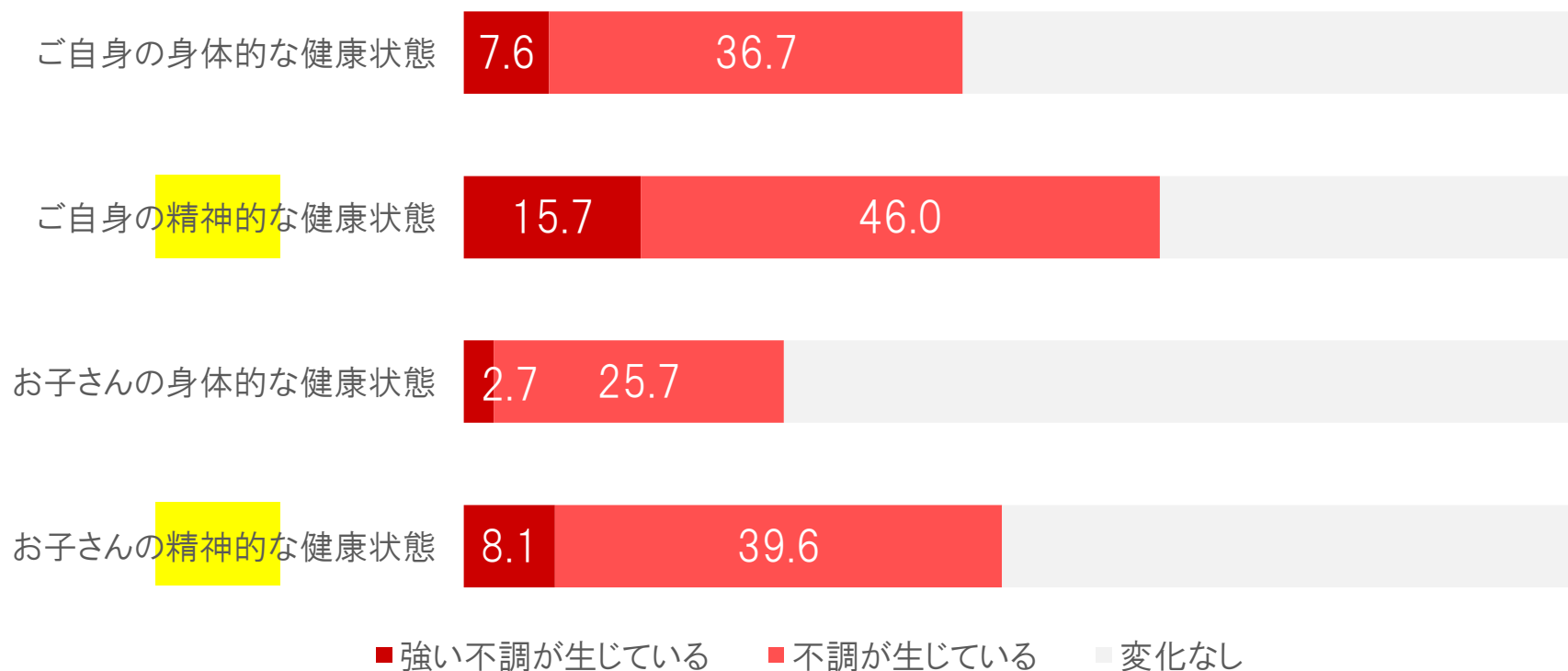
■とても苦しくなった ■苦しくなった ■やや苦しくなった ■どちらとも言えない ■ややゆとりができた ■ゆとりができた ■非常にゆとりができた

Q5 健康への影響

保護者、こどもの双方の健康状況に不調が生じている。身体面よりも精神面への影響が大きい。

現在のご自身やご家族の健康状態について、あてはまるものをお選びください。

(%)

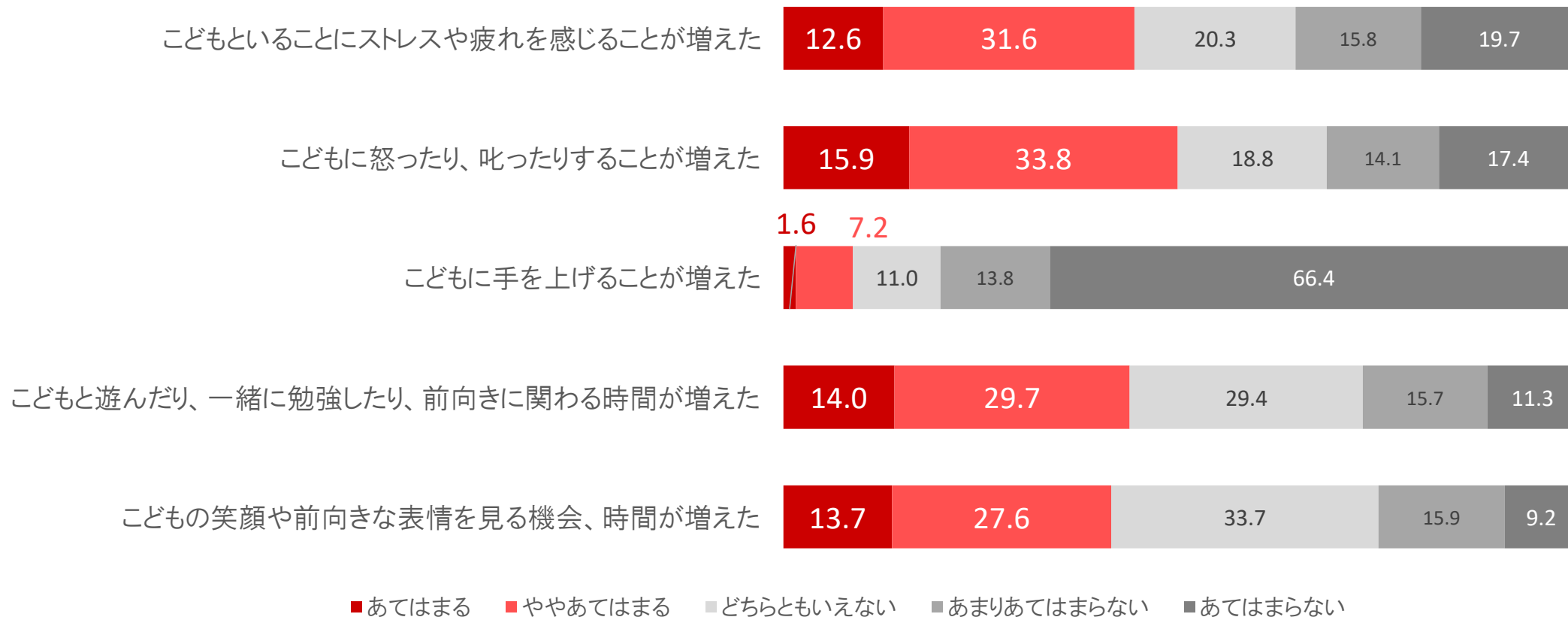


Q6 こどもとの関わり

コロナ禍の家庭内では、こどもに対して怒ったり、叱ったりすることが増えている。特に、一部の家庭では、手を上げることも増えており、ストレスの高まりが伺える。一方で、こどもと前向きに関わる機会も増えている。

ご自身とお子さんとの関わりについて、あてはまるものをお選びください。

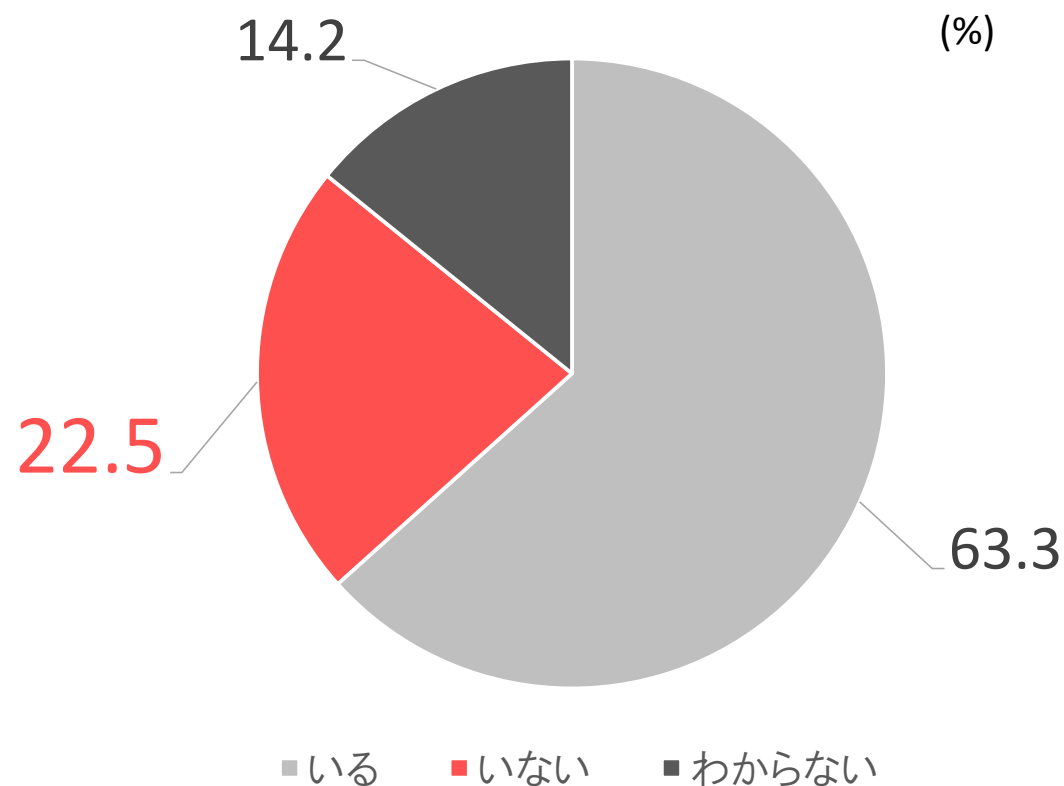
(%)



Q7 相談できる人の有無

コロナ禍において、相談できる人、手助けしてもらえる人がいない人は22.5%となっている。わからないと回答した人を含めると36.7%の人が相談できる人が明確にいない状態になっている。

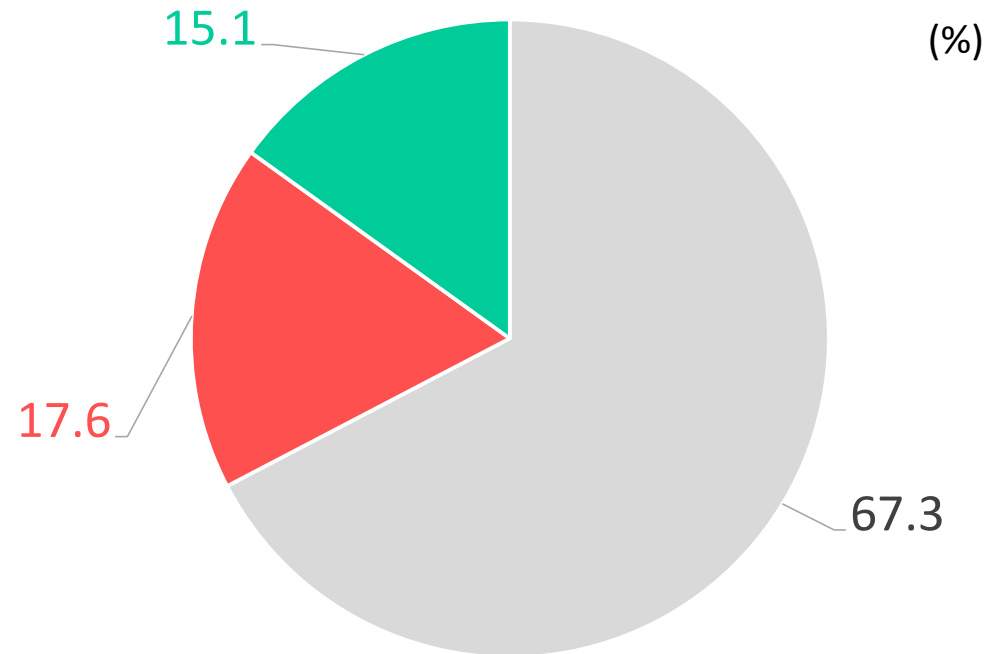
現在、生活や子育てに困ったときに相談できる人、何か会ったときに手助けしてもらえる人はいますか？



Q8 相談できる人との関係の変化

8割以上は相談できる人との関係を維持できている一方で、2割弱の人にとっては、以前よりも頼ったり、お願いすることが難しくなっている。

「いる」と答えたみなさんにお伺いします。そういった方々との関係は、コロナの影響で変化しましたか。(回答数643)

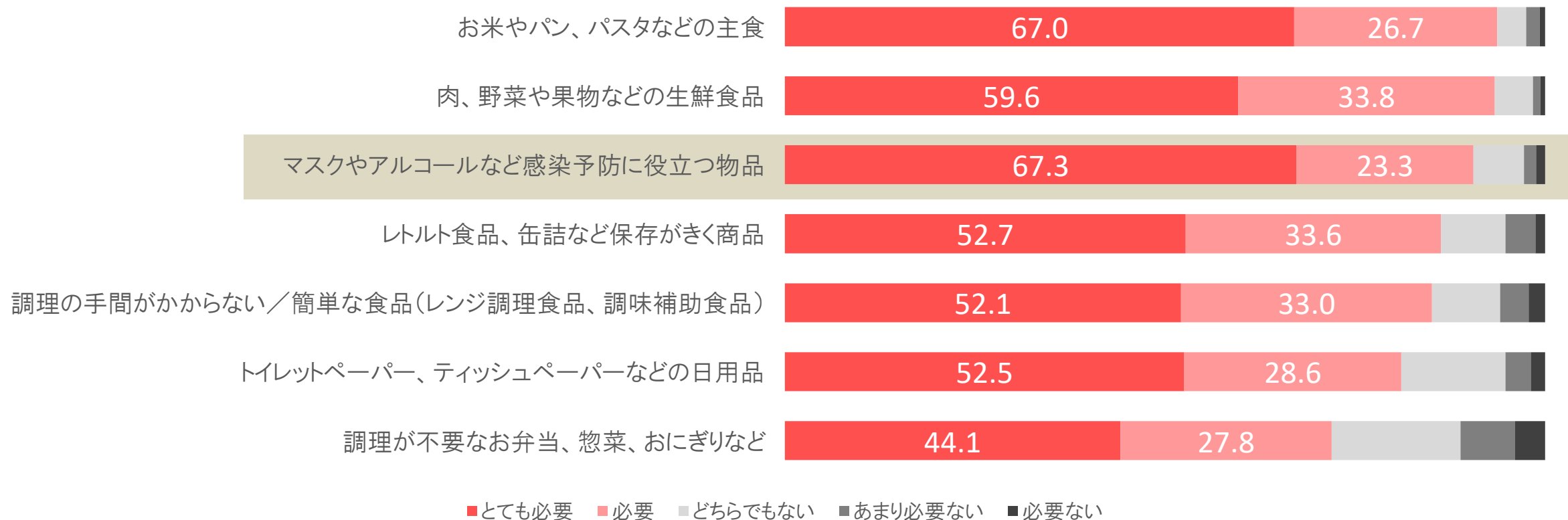


- 以前と同じように相談などすることができる(変化なし)
- 以前よりも頼ったり、お願いすることが難しくなった
- 以前よりも頼ったり、お願いすることが増えた

Q9 物品ニーズ

お米やパンなどの主食、肉や野菜などの生鮮食品のニーズが高い。また、感染予防のためのマスクやアルコールのニーズについては、食品と同等にニーズが高い。

食品や日用品として、今どのようなものがあると思いますか？あてはまるものをお選びください。(%)



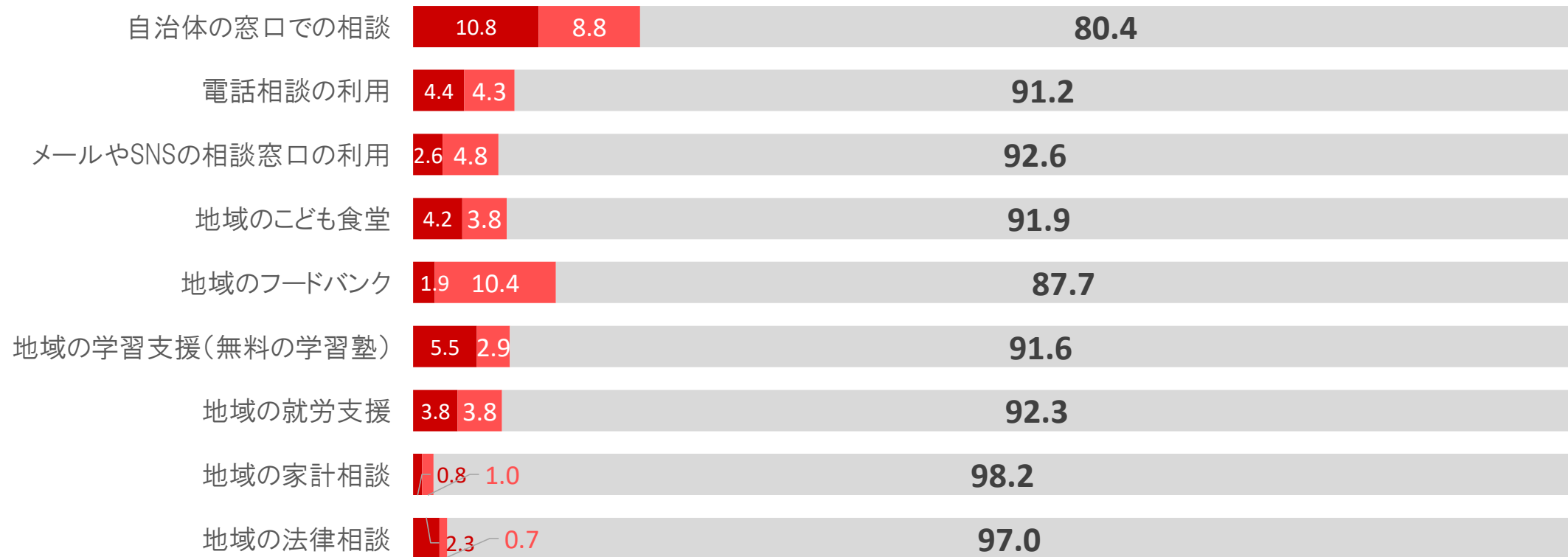
Q10 支援の利用状況

コロナ禍において、支援サービスの利用状況に影響が出ている可能性が示唆された。

一方で、そもそも、こうした支援サービスの利用率は低く、8割以上の人を利用していないのが現状である。

以下のサービスや窓口の利用状況について、教えてください。

(%)



■ コロナ禍以前は利用していたが、今は利用していない

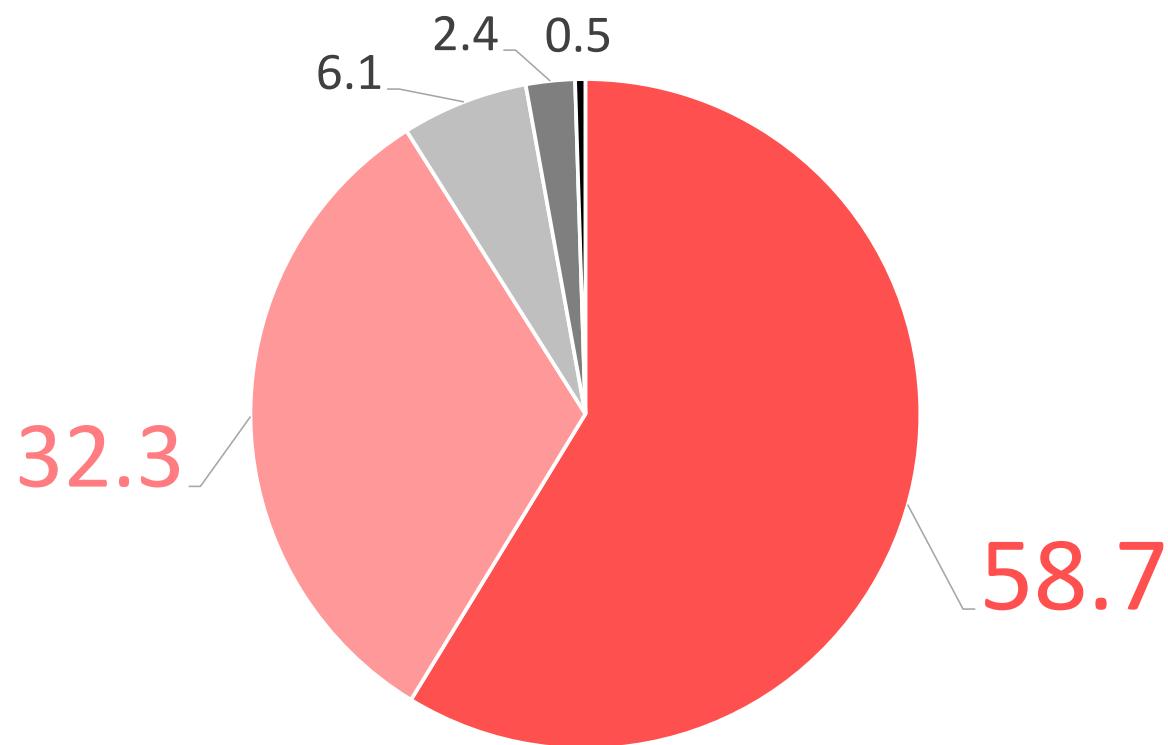
■ 現在も利用している

■ もともと利用していなかった

Q11 コロナに対する不安

約9割の人がコロナウイルスの感染に不安を感じている。

自分や家族へのコロナウイルスの感染について、どのように感じていますか？

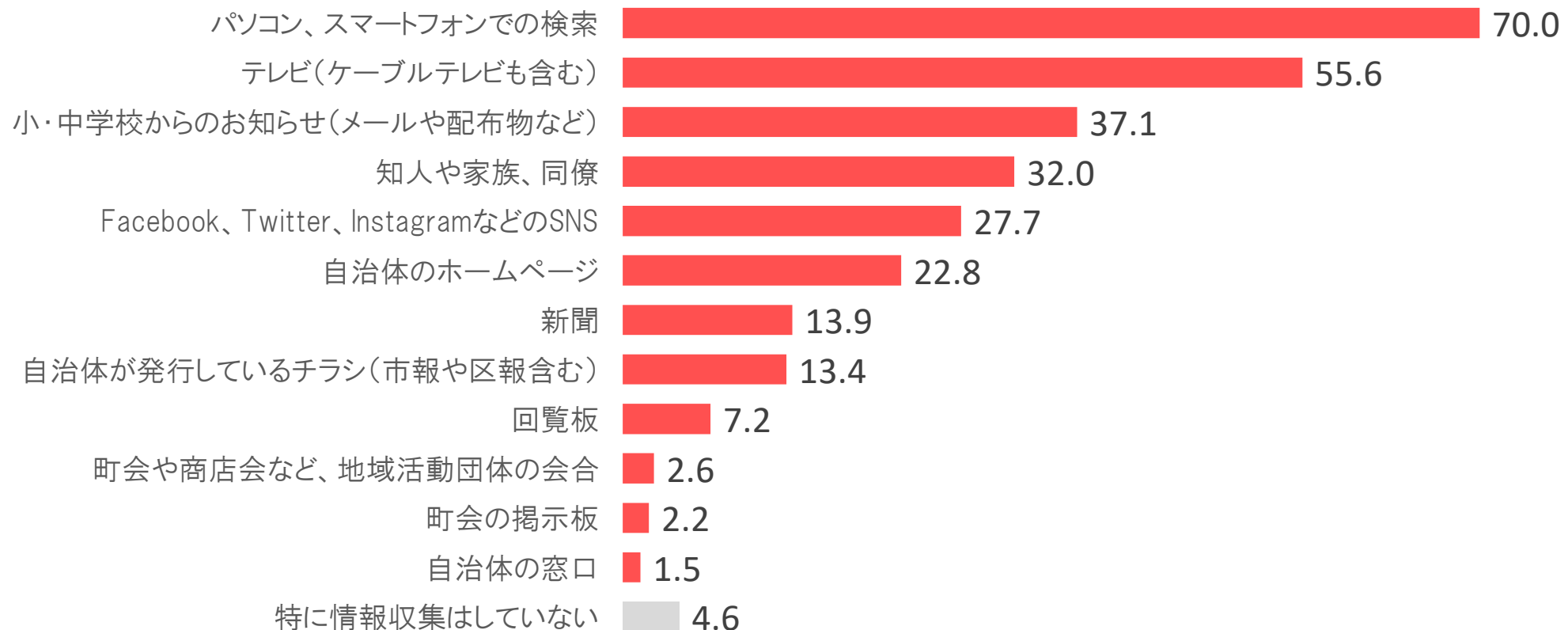


■ 不安を感じている ■ やや不安を感じている ■ どちらともいえない ■ あまり気にしていない ■ 気にしていない

Q12 情報入手経路

パソコン、スマートフォンで検索し、情報を入力している人が多い。ついで、テレビ、小学校からのお知らせ、となっている。

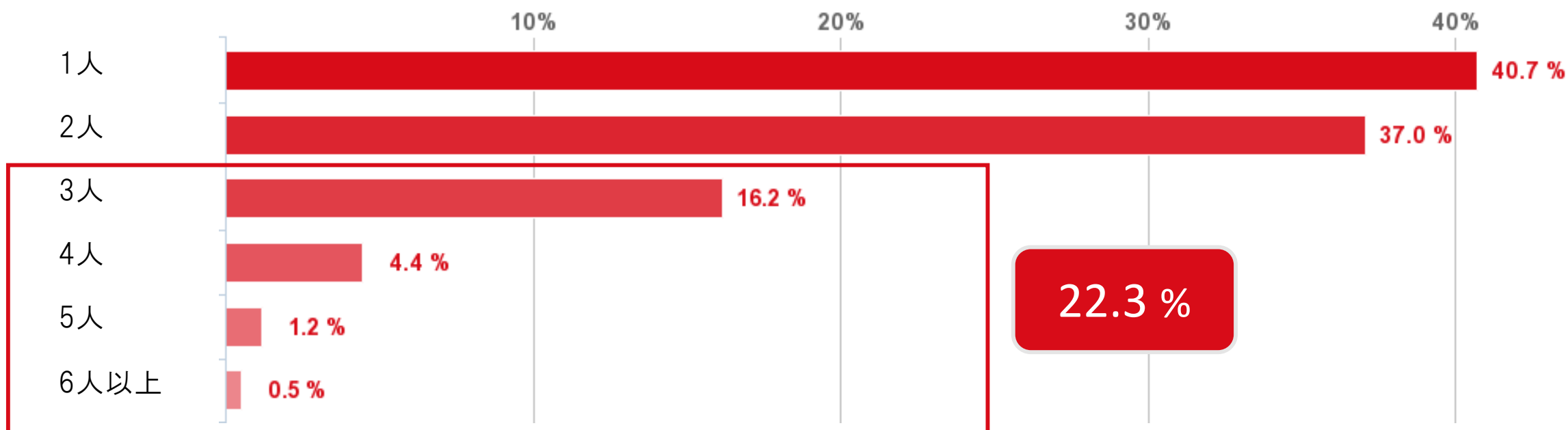
現在、コロナ禍での生活支援に関する情報はどこから入手していますか？ (%)



Q14 こどもの人数

家計を共にしている、こどもの人数は1人が40%、2人以下で77%となっている。
こどもが3人以上いる多子世帯も20%以上含まれている。

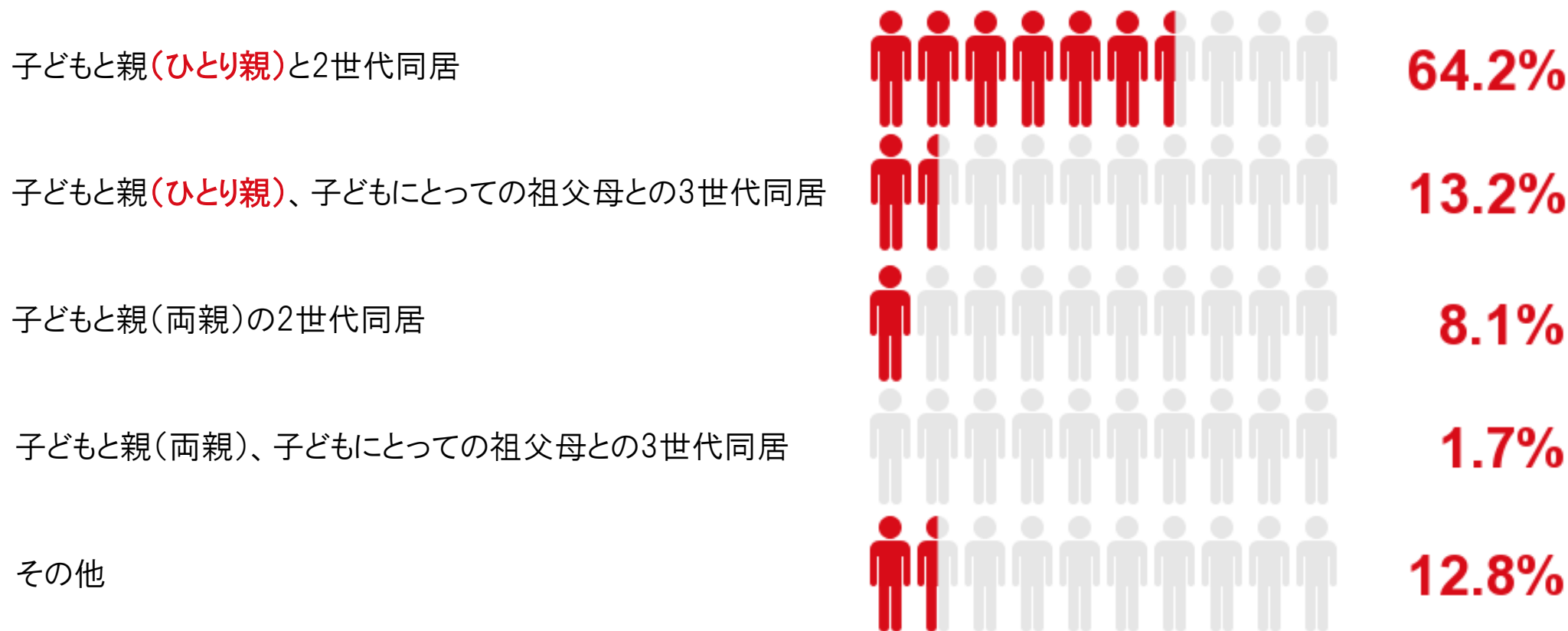
家計を共にするお子さんは何人いますか。



Q15 家族形態

ひとり親世帯が75%を占めており、大半が子どもと親との2世代同居である。

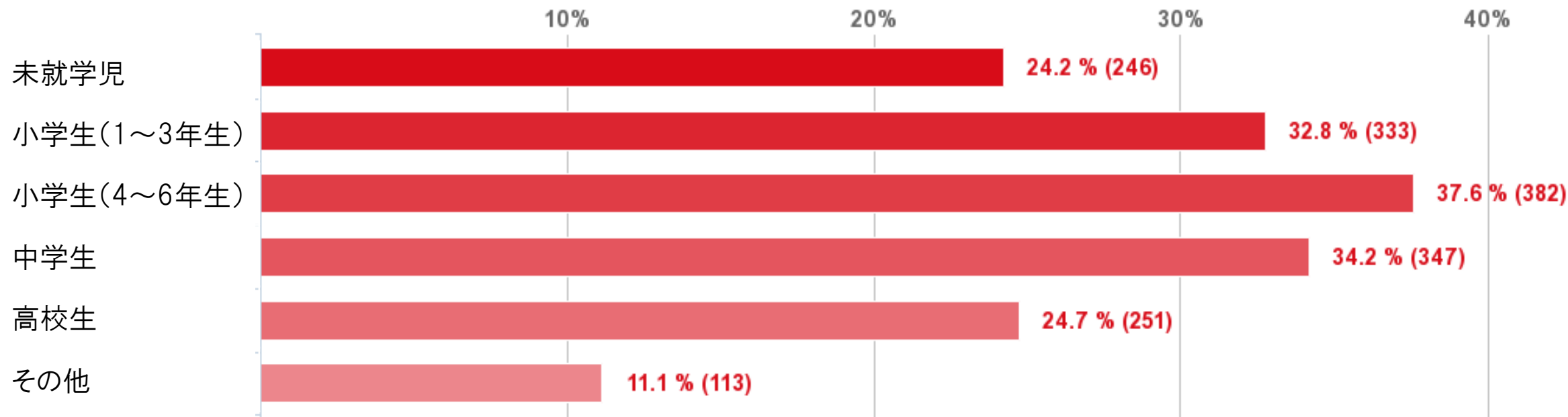
家族の形態として最もあてはまるものをお選びください。



Q16 こどもの年齢

小学生のこどもと同居している世帯が最も多く、ついで、中学生、高校生・未就学児となっている。

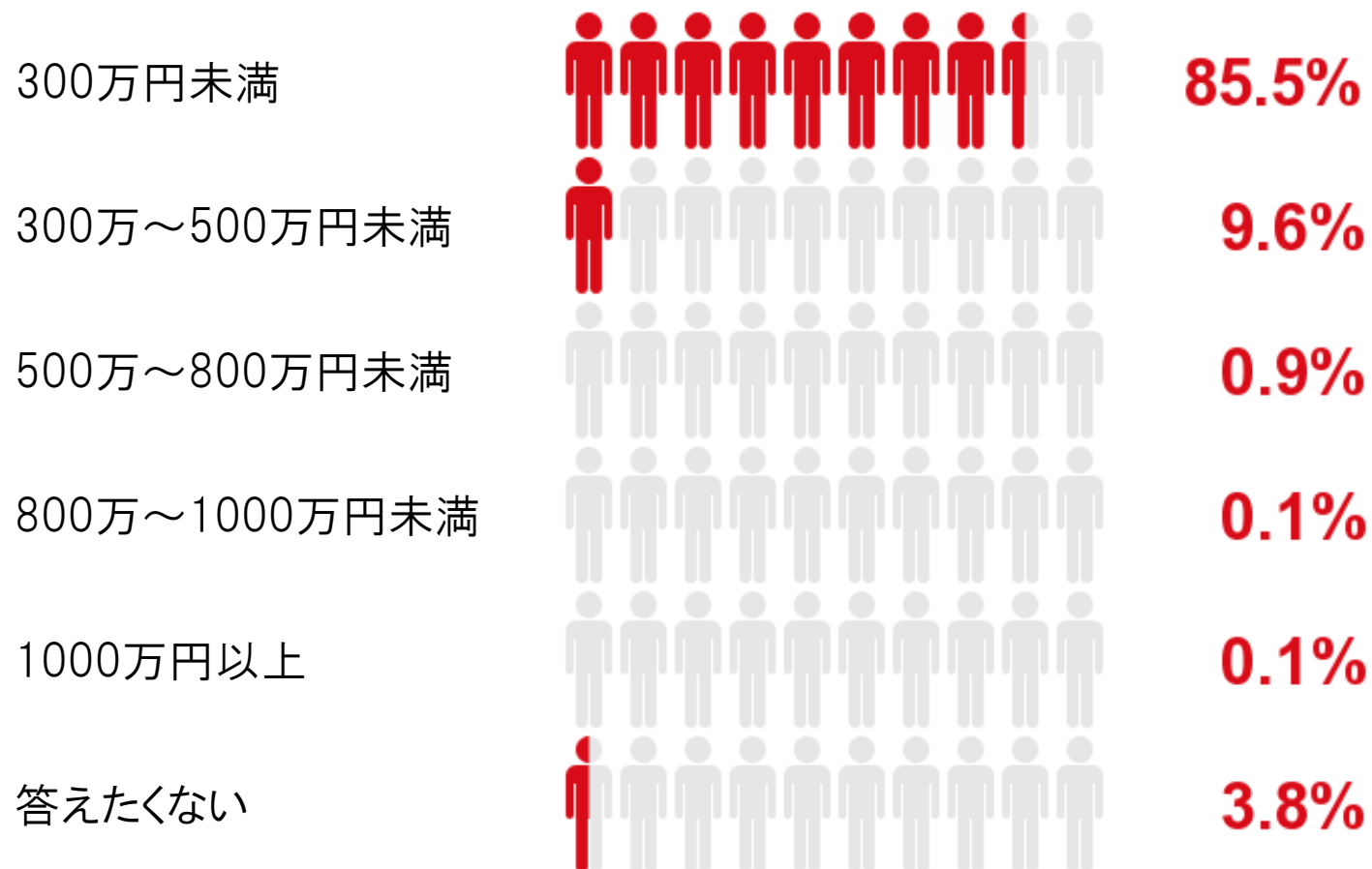
お子さんの学年を教えてください。お子さんが複数いらっしゃる場合は、あてはまるのものすべてをお選びください。



Q17 世帯年収

利用世帯の9割近くが、年収300万円未満の世帯となっている。

ご家庭の世帯年収について、あてはまるものをお選びください。



こども宅食とは？



こども宅食とは

様々な形で困りごとを抱えている子育て中のご家庭に
周囲に知られない形で、
定期的に食品や生活用品を届ける事業

家庭と
つながる

関係性を
築く

変化を
見つける

家庭とつながる

自宅に直接食品を届けるので、支援を受けているのを周囲に知られたくない家庭とつながることができる。支援を受けることに抵抗がある家庭にとっても食品の配送は気軽に利用しやすい。

関係性を築く

メールでの連絡や配送時の受け渡しを通じて、利用家庭と定期的な接点を持つことができる。そういった定期的なやり取りを通じて、関係性を強固なものにしていくことができる。

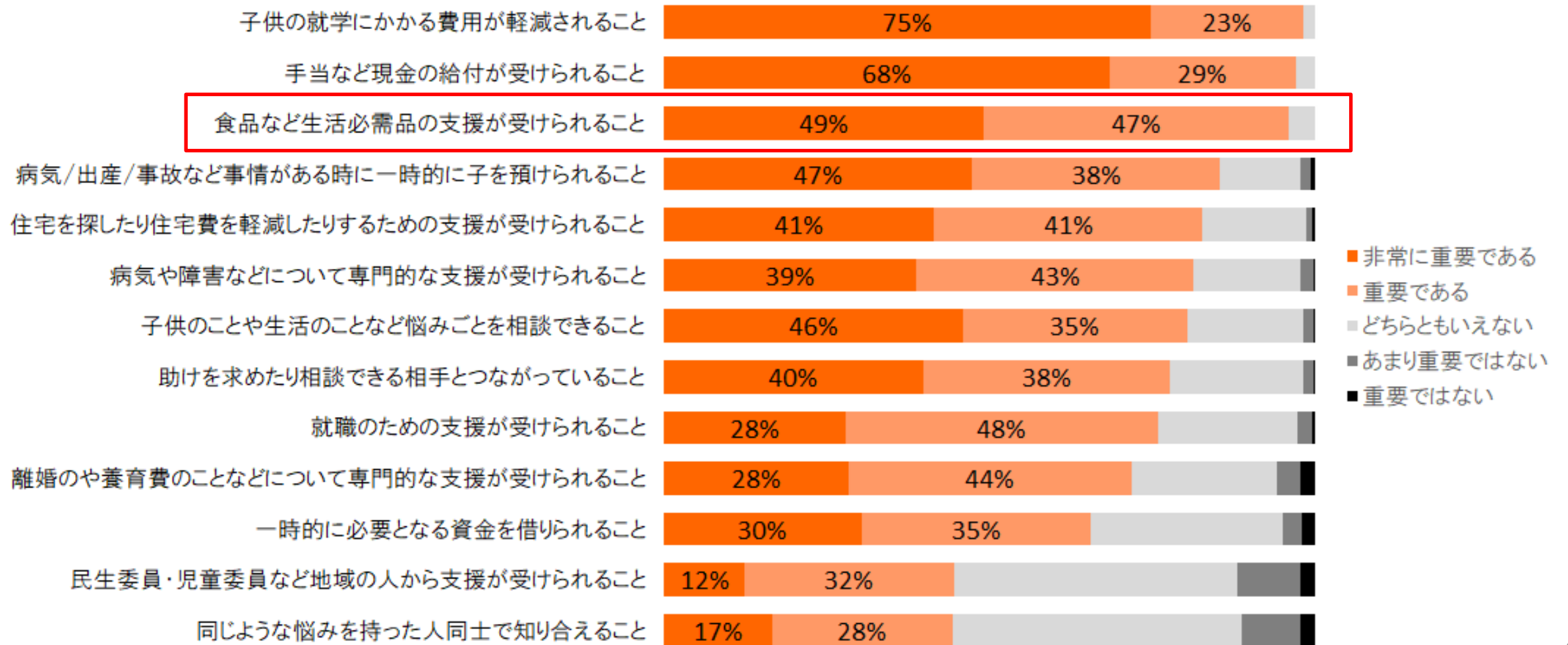
変化を見つける

定期的に接点を持ち、関係性を深めていくことで、より多くの情報を得やすくなる。必要な情報を集めることで、家庭の変化や問題の予兆に気づき、支援につないでいく。

食品の配送をきっかけにつながりをつくり、見守りながら関係性を築いて、食品以外の様々な支援につないでいくことで、ご家庭の困りごと、つらい状況が悪化するのを予防していきます。

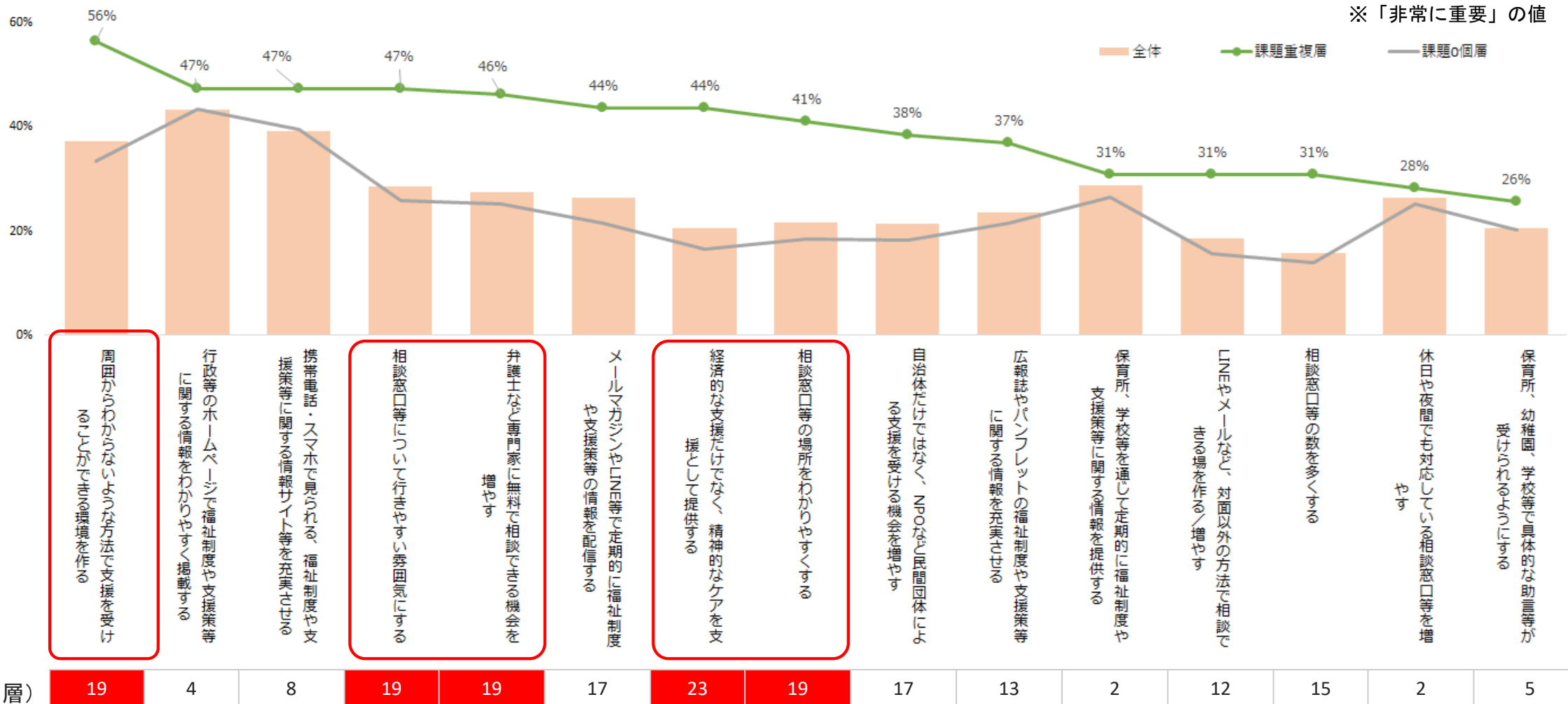
東京都で実施している、文京区子ども宅食事業の利用家庭を対象にした調査結果から、食品など生活必需品の支援に対するニーズは高いことがわかっている。

Q:以下の支援はどの程度重要だと思いますか。(それぞれ単回答_5段階評価)



また、課題が重複している、より苦しい世帯の方が「周囲からわからないような方法で支援を受けること」に対するニーズが高いことがわかっている。

Q: 必要な支援を受けられるようにするために重要だと思うことはなんですか。(それぞれ単回答_5段階評価)



差分

(重複層-0個層)

19

4

8

19

19

17

23

19

17

13

2

12

15

2

5

46

本調査を実施した



こども宅食応援団

とは…

全国にこども宅食事業が広がっている状態を目指している団体です

全国各地の自治体、民間団体が…

**新規に事業を
立ち上げることができる**

伴走支援、資金助成

**事業を継続できる
環境が整っている**

政策提言、制度活用の実績作り

**期待される成果を
出すことができる**



ノウハウの確立、マニュアル作成






こども宅食応援団

立ち上げから現在までの活動実績

2018

- 10月 こども宅食を全国に広めていくために、一般社団法人「こども宅食応援団」を設立
- 11月 活動資金を集めるため、ふるさと納税によるクラウドファンディング（GCF）を開始
- 12月  目標金額3,000万円を達成 

2019

- 2月 佐賀県にてこども宅食に関する助成事業を立ち上げ
佐賀県の2団体に対して助成決定
 - 4月 同時に、佐賀での事業立ち上げ、推進支援を開始
（「とどけYELL」と「おなか一杯便」）
 宮崎、長崎、新潟など全国各地で
こども宅食事業を立ち上げた団体に伴走支援を開始
 - 10月 長崎での事業立ち上げに関する記者会見を開催
第1回こども宅食サミットの開催
 - 11月 声があげられない、支援が届かない家庭がいることを
社会に発信するために、#つらいが言えない特集を開始
 - 12月 「京都市こども宅食プロジェクト」を始動、記者会見
クリスマスに寄付で頂いたLEGOブロックをプレゼント！
 目標金額4,000万円を達成 
- 2020
- 2月 京都市で120世帯への配送を開始！
 - 3月 一斉休校やこども食堂中止で困っている親子を、
ふるさと納税で応援するプロジェクトを開始。

こども宅食、全国に拡大中！



2020年5月26日時点

応援団が連携して
こども宅食が
始まった地域数

9 地域

応援団が連携している
こども宅食を
実施している団体数

15 団体

地域の特性にあわせた
多様な事業が各地で生まれています！

活動資金をふるさと納税で集めています！

こども宅食応援団は、新型コロナウイルス感染拡大で増大する子育て家庭の不安や子ども達のリスクにいち早く切り込んでいきます。緊急事態下で、今まで「あたりまえ」にできていたことのありがたみを改めて感じる機会が増えました。

家族が笑顔でおなかいっぱい食べられること、子どもたちが勉強や遊びに前向きに取り組めること、そんなあたりまえを守るために、そして、大きな転換期を迎えたこれからの社会を作っていく子ども達へのエールを込めて、こども宅食応援団への支援にご参加をお願いします。



寄附金額 **1,800,767円**

6%

目標金額: 30,000,000円

達成率	支援人数	終了まで
6%	104人	314日 / 335日

佐賀県NPO支援 (さがけん えぬびーおーしえん)

お気に入り

ふるさと納税で応援

寄附募集期間: 2020年5月1日～2021年3月31日 (335日間)



この画像をクリック！
(外部サイトに飛びます)

新型コロナウイルスの影響に関するアンケート



一般社団法人こども宅食応援団

(事務局：認定NPO法人フローレンス)

担当：新海・小柳

メールアドレス：info@hiromare-takushoku.jp